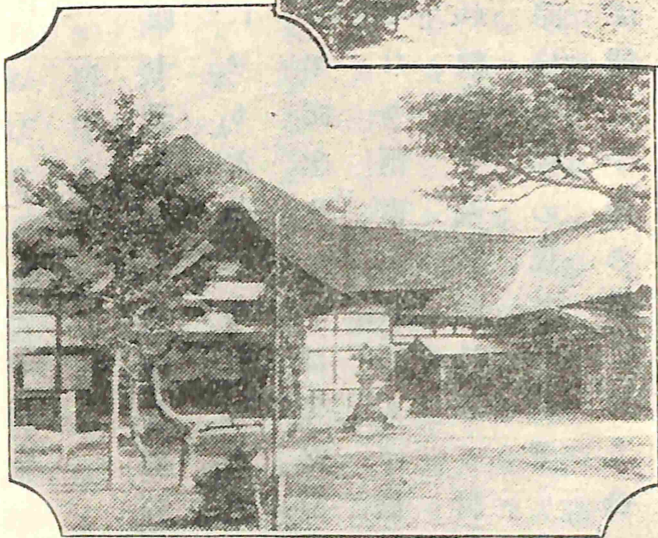
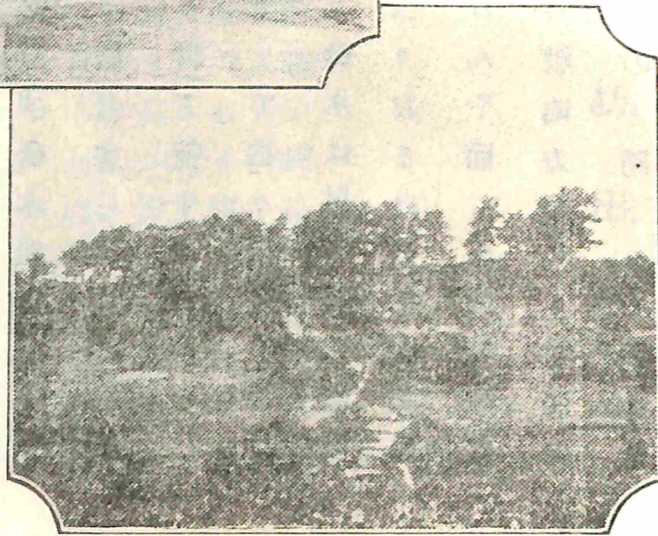


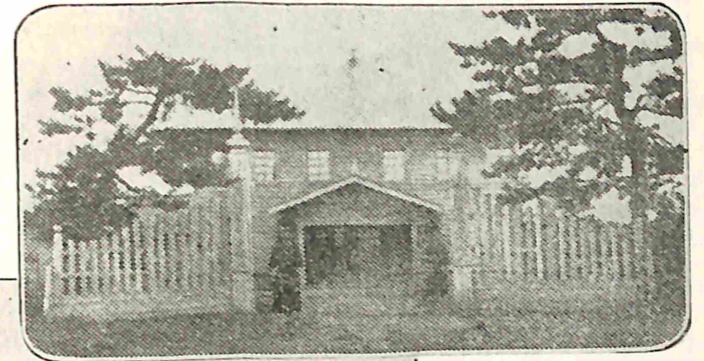
郷社八幡宮



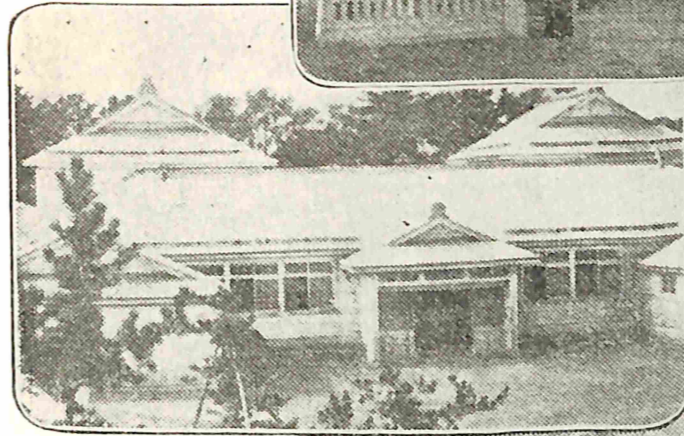
雲祥寺



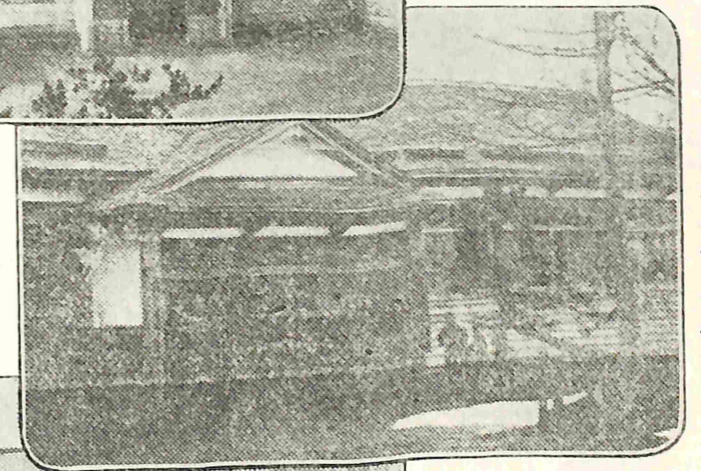
賽ノ川原



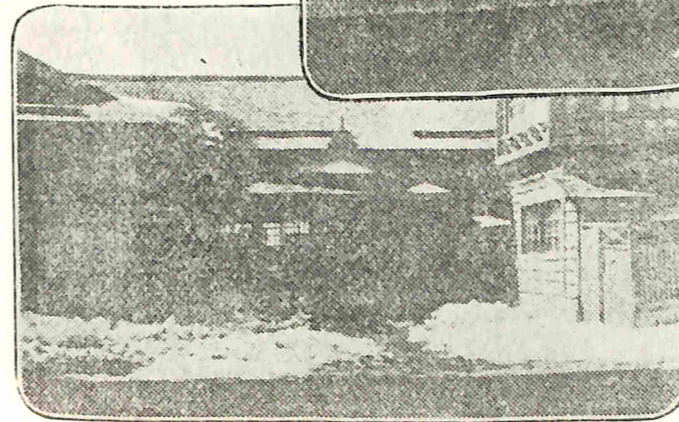
明治高等小學校



金木第一尋常小學校



全第二尋常小學校



全第三尋常小學校

序

金木町は明治四十五年金木村誌を發行して村勢の沿革推移の狀を明かにせり本年二月紀元の賀節を以て村を町に改稱せられたるを記念せんが爲今回再び金木案内を發行するの舉に出でたり兩書を對照せば讀者著しく其の進境を看取せん夫れ數戸の聚落猶ほ以て村と稱するを得へし町に至りては略は各種の民業を網羅して益々發達の徴あるにあらずんば能はず此の點に於て金木は夙に其の素質を有せしも這般公に認めらるゝに至りたるは自治團體の一大面目として豈に慶祝を禁す可けんや而して此の機會を劃して町勢の現狀を發表するは一般地方自治上啓沃の資材として深厚なる意義を有するものと謂ふへし茲に金木町の前途を祝福して欣んで一言を序す

大正九年五月衆議院議員總選舉の翌日

見坊田鶴雄

序

進歩は社會の理想であらねばならぬ我が郷は四百年の夢を破つて町となつたのは一つの進歩である併し進歩の裏面には努力のあることを忘れてはならぬ一朝力を緩めるときは退歩が伴ふのである茲に於て吾々は精神修養の方法として『自己を知る』と云ふことは必要であると全様に町民は『町を知る』と云ふことが肝要である風俗人情産業交通運輸克く利害得失を稽へ探長補短の策を講すべきであるそれとも町勢の發達は一人一家の能くすべきでない町民共同の力に待たねばならぬ自今百尺竿頭一步を進めて町の素質充實に力行を望む次第である

大正九年二月十一日(紀元節)町制施行許可に接して

町長 高橋 月 郵

町制をいはふ歌

一、大倉山の秀でたる 金木の川の水清し

今日より村は町となり いよく榮ゆるめでたさよ

一、いでや町民もろともに 世のなりはひにいそしみて

治まる御代の大正の 君が恵みにむくひなん

月 村 拙

はしがき

金木町は其の基原遼く四百年の昔にありと傳ふる者あるも今日之を願れば諸事茫乎として到底尋ぬべくもあらず僅かに古書の塵を拂ふて概略を窺ふに足るは東津輕郡蟹田村大字小國の開祖武田ながしの一家が移りて開拓せりと言ふと雖も是れさへ確然たる證左あるにあらざるが如し即ち幾多傳説或は口碑の傳ふるものあるも何れも根據なき論議にして金木町の濫觴は遂に之を窺知し能はざるを遺憾とす

概して事績を見るに金木町は維新前御役所を此地に置き金木組二十五ヶ村を管轄し御藏奉行を置きて金木組の内十ヶ村及金木新田十八ヶ村に於て一萬二千石を統轄せりと言へば當時より既に地方の大郷として五所川原以北の文化の中樞となり人文の發達近郷に冠たり而して之等諸郷の物資の集散は一に金木町を中繼して各地に至るを常とするを以て隨つて商業殷盛にして商略の機敏亦他郷の比に非ず唯工業に至りては僅かに二三製材所、精米業を見るのみ凡そ加工的生産らしき生産物の殆ど無之きは余力充分の金木町として考省を要すべき事ならん農業に至りては五百餘町歩の田野は能く一

萬八百石の産米を産出すと雖も未だ整理すべき耕地多く殊に農家副業奨励の徹底せざるは憾みなり之を要するに金木町は今後交通諸機關の完成と相俟つて益々發展の機運に遭遇しつゝあり之が達成と否とは一に町民の協力如何に在るべし這回町制を施行して人心の新たなるに際し一段の努力を希望するや切なり

尙書中繁簡宜しきを得ざるは一に材料の存在如何に因るものにして杜選或は遺漏の点多々あるべく幸に諒恕を乞ふ

大正九年五月

編者 小野破琴
長谷川北來

町制『金木』
記念

總説

一、地勢

金木町は青森縣北津輕郡の中央に位し東は大倉岳、裾野にして曠莫たる原野畑地に相連り西は岩木川を隔て、西津輕郡稻垣村に接し南北一帯田園遠く展げ遙かに岩木の秀嶺を望みて風光掬すべきものあり又金木川の流域は東より大字金木の南端を奔りて岩木川に注げり面積東西二里南北一里二十丁にして南西に向つて緩傾斜を爲し土地高燥水清く地味豊沃なれば作物の成育に最も適せり

二、沿革

史を按ずるに金木町(大字金木)は維新前に於て御藏所を置き金木組二十五ヶ村を管轄し御藏奉行を駐して金木組の内十ヶ村及び金木新田十八ヶ村に於て一萬二千石を統轄せりと當時より地方唯一の大郷にして商賈軒を較べ商業頗る殷賑なるものあり爾來星移り物變り時に盛衰のまきに非らずと雖も素より附近村落樞要の地点なるが故に文物の中樞となり同地方大郷の面目を維持し來れり而して明治十六年金木外五ヶ村の組合戸長役を此地に置き同二十二年町村制實施の發布と共に金木、川倉、藤枝、蒔田、神原の五區を併合して村制を施けり其他明治十一年從來の巡查屯所を金木警察分署と改稱して小泊村に至る九ヶ村を管轄し同二十一年區裁判所出張所を置きて内潟村に至る六ヶ村を區域とし金木郵便局は明治七年郵便取扱所を設置せしが同三十六年官制改正と共に金木郵便局と改稱して今日に至れり曩には大川筋に神田橋を架設して岩木川對岸の各村と交通の便を開き近くは三好村

を経て五所川原町に至る新路線を鑿きて運輸の至便に資し或は種付所並に大競馬場を設けて畜産奨励に備へ又電燈を布設し蒸汽唧筒を設置して文明の利器を應用する等最近に至りて面目を一新し茲に時流の進運に順應して大正九年二月十一日を以て町制を施行するに至れり

三、戸 口

本町は面積周圍に變化なく従つて戸數人口の増減の如きも甚だ緩慢なり之を既往五ヶ年の統計に徴すれば戸數に於て僅かに七戸を増加したるも人口に於ては反て減少の状態を呈せり是れ地方共通の趨勢にして近時人口の都會吸集に起因する處ならんか左に既往五ヶ年の戸數及び人口の數を掲ぐべし

年 別	戸 數	人 口	男	女
大正三年	七二〇	五、二二六	二、六九九	二、五二七
大正四年	七二二	五、三二二	二、七八三	二、五三〇
大正五年	七二一	五、三一八	二、七三〇	二、五八八
大正六年	七二三	五、一八四	二、六五三	二、五三一
大正七年	七二七	五、二二八	二、六三一	二、四九七

尙大正七年に於ける戸數を職業別にせば農業四百三十四戸にして最も多く商業百八十八戸工業五十五戸雇人及び労働者八十五戸官公吏學校教員神職其他二十一戸交通及び運輸に従事するもの十四戸等なり

四、財 政

一般經濟の膨張は延いて自治体の財政に及ぶ是れ大勢の然らしむる處なり本町歳入出に見るも之を大正五年度と同七年度と對比せば殆んど五割の膨脹を來せり即ち左に村稅歳入出の最近三ヶ年對照表を掲ぐべし

▲ 歳 入

年 度	地 租	縣 營 業 附 加 稅	雜 種 稅 附 加 稅	戶 數 割 附 加 稅	國 營 業 附 加 稅	所 得 稅 附 加 稅	其 他 收 入	合 計
五 年 度	一、三三〇、七	二、四八、八	六七〇、九	八、五三、九	一、三三、三	二、〇〇、四	二、四四、五	一三、六八、七
六 年 度	一、三六八、七	二、九七、九	七七、五	九、八七、〇	一、五五、五	二、三八、五	一、六〇、三	一四、二九四、〇
七 年 度	一、三六九、三	三、五九、二	九八、四	一〇、三〇、四	一、五七、五	二、九五、六	二、七三、七	一九、二五〇、五

▲ 歳 出

年 度	役 場 費	土 木 費	教 育 費	衛 生 費	勸 業 費	其 他 諸 費	臨 時 費	合 計
五 年 度	二、三三、三	二、三三、一	四、〇七、三	三、四、五	一、三、〇	四、三八、〇	二、五、六	一三、六一、七
六 年 度	二、四二、七	二、五〇、〇	四、七六、三	八七、〇	七〇、〇	五、〇四、八	一、六八、四	一四、二九四、〇
七 年 度	三、一六、三	二、七七、〇	六、六七、五	八二、五	七五、〇	六、六三、七	二、二七、六	一九、二五〇、五

本町の歳入出は上述の如くなるが其他の租稅に於ても逐年増額しつつあるは數の脱れざる處にして殊に縣稅に於て殆んど八割の増額は注目し價すべし之等諸稅に關する統計如左

▲ 國 稅

年 度 別	總 額	地 租	所 得 稅	營 業 稅
五 年 度	九、二八、〇	七、一八、五	一、一三、五	九七〇、三
六 年 度	一〇、一六、六	七、五四、三	一、九〇、八	一、〇七、七
七 年 度	一一、五九、五	七、九八、二	三、一五、六	二、一八、五

▲ 縣 稅

年 度 別	總 額	地 租 稅	戶 數 割	營 業 稅	雜 種 稅	所 得 稅 附 加 稅	營 業 稅 附 加 稅
五 年 度	六、四四、三	三、三五、二	一、一四、七	四、六、九	一、三三、三	七三、八	一三五、五
六 年 度	八、九五、九	五、一三、三	一、八〇、八	四、三、六	一、三三、三	一三五、二	一七六、一
七 年 度	一一、三九、七	五、一八、五	三、六五、七	五、七、四	一、五、六	二、六、八	二〇三、七

尙本町に於ける大正七年度末現在の基本財産は現金九千六百四十八圓五十四錢二厘土地一町七畝十步建物九百九十五坪五合なるが之を細別せば現金に於て基本金二千七百二十八圓十一錢一厘(有價証券一千圓)恩賜救濟資金八百三十圓三十圓三十六錢一厘救濟資金二千四百六十二圓四十六錢二厘(有價証券三十圓)學校基本財産三百四十八圓九十七錢八厘役場建築積立金二千二百四十八圓六十三錢又土地及び建物は町基本土地一段八畝九步建物二百五十一坪五合學校基本土地八段九畝一步建物七百四十四坪等なり本町に於ける土地種目及び出入調並に地價及び賣買價格は左表の如し

▲土土種目及出入調

種別	田	畑	宅地	山林	原野	沼池	總反別
民有地	五七、四九五	八六、〇八五	一四八、九三五	四三、八〇七	五、五六二	—	七〇七、〇三六
公有地	—	四三四	一、五六一	一七、五三三	六三、三五一	—	六四一、三〇八
官有地	—	二四八	—	四四〇、九五一	九、六〇七	一、五〇一	四三三、九五八
本町民の他村に所有反別に村民の本町に所有反別	二五、三〇〇	六、五二〇	一、八五〇	五、八九〇	—	—	三三、六三〇
	五、五九四	二、二二八	三、〇五九	—	一、二四八	—	五九、〇六〇

▲地價並賣買價格(一反步當り)

田	畑	宅地	山林	原野
臺帳地價	最高 三、八四〇	最高 一、七〇〇	最高 三、三〇〇	最高 一、〇〇〇
	最低 九、三三〇	最低 二、〇〇〇	最低 五、〇〇〇	最低 三、〇〇〇
賣買時價	最高 四、〇〇〇	最高 一、五〇〇	最高 三、〇〇〇	最高 一、〇〇〇
	最低 二、〇〇〇	最低 五〇〇	最低 五〇〇	最低 一〇〇

交通運輸

一、交通

本町は南五所川原町を距る二里二十五町北中里村を経て小泊村に至る九里にして西は武田村へ二里及び神田橋(大字神原地内)を渡りて西津輕郡稻垣村、車力村、十三村方面に通じ就中陸奥鐵道開通後は僅かに二里餘五所川原より鐵道の使あり加ふるに水運としては大字蒔田の渡舟場より十三港に小廻船の上下ありて輸出入の便に供す交通機關としては大字金木本町通りに駐車場を置きて各地へ乗合馬車を往復し五所川原へは特に定期發着を爲して鐵道と聯絡を謀り其他百餘臺の荷積馬車は運搬用として貨物の集散に便なり左は本町に於ける現在の交通機關なり

客馬車八、荷積馬車六三、荷積馬籠二四三、人力車

二、運

左に大正七年に於ける本町の輸出入貨物の種類及び數量價格を掲ぐ

種類	數量	價格	種類	數量	價格
米	五〇、〇〇〇 <small>俵</small>	七〇〇、〇〇〇 <small>円</small>	砂	五〇	二、〇〇〇
酒	一、五〇〇 <small>石</small>	一五〇、〇〇〇	木綿織物	—	一五〇、〇〇〇
醬油	五〇〇	一、五〇〇	絹織物	—	七〇、〇〇〇
味噌	一三、〇〇〇	六、五〇〇	仕立物	—	一五、〇〇〇
鹽	四、〇〇〇 <small>俵</small>	一、二〇〇	古着類	—	三、〇〇〇
石油	一、二〇〇 <small>面</small>	一、〇〇〇	友仙類	—	九、〇〇〇
木炭	三〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	子一ル類	—	七、〇〇〇
肥料	—	五〇、〇〇〇	綿類	—	八、〇〇〇
魚類	—	三〇、〇〇〇	糸類	—	五、〇〇〇
菓子	—	五、〇〇〇	化粧品	—	一五、〇〇〇
茶	—	三、〇〇〇	紙類	—	五、〇〇〇
交房具	—	二、五〇〇	圖書雜誌	—	三、〇〇〇
煙草	—	一〇、〇〇〇	洋酒	—	五、〇〇〇
罐詰	—	五、〇〇〇	銅鐵物	—	三〇、〇〇〇
陶器	—	三、〇〇〇	木材及製材	—	二五、〇〇〇

荒物	八,000	小間物類	10,000
薬工品	3,000	果實類	2,000
蔬菜	1,000		

種類	數量	價格	種類	數量	價格
米	60,000 <small>石</small>	840,000 <small>円</small>	砂	300 <small>冊</small>	6,600
酒	1,000 <small>石</small>	77,000	木綿織物	130,000	
醬油	400	13,000	絹織物	35,000	
味噌	10,000 <small>石</small>	5,500	仕立物	9,000	
塩	3,000 <small>石</small>	9,240	古着仲繼	1,000	
石油	1,000 <small>石</small>	11,000	友仙類	5,000	
木炭	15,000 <small>石</small>	8,250	ネル類	5,000	
肥料	30,000	30,000	綿類	6,500	
魚類	3,000	3,000	糸類	4,000	
菓子	10,000	10,000	化粧品	1,000	
茶	1,100	3,500	紙類	3,500	
文房具	2,000	16,000	諸車製造	16,000	
圖書雜誌	2,000	7,000	木葉柁	7,000	
煙草	5,000	2,000	打刃物	2,000	
洋酒	3,800	6,000	薬工品	6,000	
罐詰	3,500	3,000	果實類	3,000	

銅鐵物	23,000	蔬菜類	1,500
陶器	2,000	製材	30,000
荒物	5,000	小間物類	7,000
曲物	5,000	指物類	5,000

三、通 信

本町に於て始めて郵便制度の施設を見たるは實に明治七年十月なるが其後幾多の變遷ありて今日に及ぶ現局長津島忠次郎氏尙詳細に官公衙欄に就て見るべし大正七年度に於ける郵便事務の成績左の如し

▲郵便電信引受配達其他

通常郵便	小包郵便	電報
引受 普通 三九,二八八	引受 普通 二,八五五	發信 七,〇三四
書留 二,七二七	書留 二,三三三	著信 八,一八三
配達 普通 四九,八二一	普通 五,六六八	中繼 三,五七一
書留 三,三三三	書留 二,〇二〇	

▲爲替貯金振替貯金其他

爲替 振出	口數	金額	拂渡	口數	金額
	三,六四〇	七九,九六九		七〇,七六一	一一〇
貯金 預入	口數	金額	拂渡	口數	金額
	八,三〇五	四九,九七九		七,七六一	一一〇

教育産業

一、生 産

振替 拂込	口數	金額	拂出	口數	金額
	二,一七三	一七,一七三		一六	一六
貯金	口數	金額	拂渡	口數	金額
	二,一七三	一七,一七三		一六	一六
國庫 受入	口數	金額	拂渡	口數	金額
	三,五五〇	三,五五〇		一七五	一七五
保險 受持	口數	金額	保險料	口數	金額
	二,五二六	一八,〇三三		一,八八四	四九,七〇〇
年金 拂渡	口數	金額			
	二,九三三	一,一五〇			

本町は地形の關係上生産物は米穀を以て主とし之に次ぐは商業所得、他町村より生ずる收入作得米、畑作、林産、工産、株券債券、貸金利子、勞銀、旅客收入等にして商業の販路は喜良市村、嘉瀬村、武田村、稻垣村、車力村概算千五百戸を供給地と爲す米穀は精白又は玄米にて五所川原、青森、北海道へ輸出し製材亦弘前、青森方面に輸出せり即ち大正七年中に於ける重要生産物の數量及び價格は左の如し

種 目	數量	價格	種 目	數量	價格
産 米	一〇,八〇〇 <small>石</small>	三六,〇〇〇 <small>円</small>	家畜及養鶏	一,八〇〇	
大小豆	二七七	七,二四五	蠶	四〇〇	
豆 類	三七七	七,二四五	蠶	四〇〇	
馬鈴薯	九〇,〇〇〇 <small>石</small>	一,八〇〇	馬鈴薯加工品	七,一六一	
雜 穀	三九九 <small>石</small>	二,八三五	乾 草	五〇,〇〇〇 <small>石</small>	五,〇〇〇
話 瓜	一,〇〇〇	一,〇〇〇	薬工品	三,五〇〇	
麻(製麻)	五五	五,五〇〇	出稼賃金	二,五〇〇	
蔬菜類	七,〇〇〇	七,〇〇〇	精米賃金	二,五〇〇	
果實類	七,〇〇〇	七,〇〇〇	製材賃金	五〇〇	
菓 子	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	味 噌	二〇,〇〇〇,二一,〇〇〇	